

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
専門学校大原自動車工科大学校		平成1年1月26日		児玉 紀裕		〒807-0023 福岡県北九州市八幡東区宮の町1-1-1 (電話) 093-651-5582																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人 大原学園		昭和54年4月1日		中川 和久		〒101-0065 東京都千代田区西神田1丁目2番10号 (電話) 03-3292-6266																							
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程		二級自動車整備学科			平成22年度文部科学大臣認定	—																						
学科の目的		モータリゼーション化、国際化等の社会において、自動車整備士の分野を担うために必要な基本的原理を理解し、専門的能力と実践的技術を身に付けた人間性豊かな社会人を育成することを目的とする。																											
認定年月日		平成26年3月31日																											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																					
	2年	1818	615.6	0	1202.4	0	0	0																					
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)		専任教員数	兼任教員数		総教員数																					
200		133	0人		11人の内数	0人		11人の内数																					
学期制度	■前期: 4月1日 ~ 9月30日 ■後期: 10月1日 ~ 3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 秀・優・良・可・不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とし、秀・優・良・可を合格、不可を不合格とする。																							
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 7月下旬 ~ 8月下旬 ■冬季: 12月中旬 ~ 1月初旬 ■学年末: 3月31日				卒業・進級条件	・各科目の評定値が全て可以上 ・学科及び実習における提出物が提出されていること。 ・2年次から3年次に進級する際には必ず2級ガソリン、2級ジーゼル整備士を取得すること。 ・補習で欠席状態を補うこと																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 理解を深めるため放課後勉強会を開いている。また、試験結果により面談指導をおこなっている。				課外活動	■課外活動の種類 ・ボランティア清掃、野球部、サッカー部、自動車部 (令和2年度はコロナの影響で活動実績なし) ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 自動車ディーラー、建設産業機械整備				主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																							
	■就職指導内容 ・就職対策講座授業、個別面接指導、履歴書作成指導					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>52</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>2級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>52</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>中古自動車査定士</td> <td>③</td> <td>26</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2級ガソリン自動車整備士	②	52	52	2級ジーゼル自動車整備士	②	52	52	中古自動車査定士	③	26	20				
	資格・検定名	種	受験者数	合格者数																									
	2級ガソリン自動車整備士	②	52	52																									
2級ジーゼル自動車整備士	②	52	52																										
中古自動車査定士	③	26	20																										
■卒業者数 52 人 ■就職希望者数 48 人 ■就職者数 48 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92 %				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																									
■その他 進学4名 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)				■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																									
中途退学の現状	■中途退学者 9名 令和2年4月1日時点において、在学者125名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者116名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更・留学生在留資格更新不許可のため。				■中退率 14% ■中退防止・中退者支援のための取組 進路変更などの希望者に対して面談を行い資格の重要性を伝えている。保護者との連携により遅刻欠席者の増加を防止している。																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・試験による特別奨学生制度 ・資格・クラブ活動による特別奨学生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																												
当該学科のホームページURL	<a href="https://yahata.o-hara.ac/bunya/jidousya/">https://yahata.o-hara.ac/bunya/jidousya/</a>																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である自動車ディーラーの整備部門と連携して教育課程の編成を行なうことにより、専門的な知識・技術修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②自動車整備分野における学修の中心は整備技術知識である。この整備技術について、教育課程編成委員会を通じて常に最新の整備技術を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践修得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにすることで、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

委員会は学校内教務部の上位に設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。委員会は、授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する意見を集約し、教育課程編成の策定を行う。

②意思決定の過程について

本校の教育課程編成の意思決定の過程を以下のとおり定め委員会の意見を活用する。

委員会において各学科の課題を明確にして、教育課程編成委員会に提言を求める。

委員会では企業等からの提言を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

教育課程編成委員会内での決定事項については、校長、教務部長が速やかに次年度以降の教育課程編成に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
木下 伸二	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 指導部教育課 課長	令和2年4月1日～令和3年3月 31日(1年)	①
和泉 孝司	ネットヨタ北九州株式会社 サービス部 技術・教育課 係長	令和2年4月1日～令和3年3月 31日(1年)	③
一田 雄二	北九州日産モーター株式会社 営業本部 サービス部 部長	令和2年4月1日～令和3年3月 31日(1年)	③
児玉 紀裕	専門学校大原自動車工科大学校 校長	—	
小林 恒彦	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 部長 自動車課課長	—	
木山 龍昭	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課 課長補佐	—	
藤永 賢治	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課	—	
大西 剛	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課	—	
宮木 光司	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課	—	
小島 聡	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課	—	
道上 将和	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課	—	
木村 耕陽	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課	—	
田中 誠	専門学校大原自動車工科大学校 教務部 自動車課	—	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、12月)

(開催日時(実績))

令和2年度

第1回 令和2年8月20日 15:45～16:30

第2回 令和2年12月3日 15:45～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

特定制度について周知要望があったため学生に制度内容を説明。今後自動車整備は高度化する傾向であるが、2級整備士としての基礎があって初めて高度技術に対応できる整備士になれる。まずは安全作業を徹底して教育し、工具の基本的な使用方法とテスターの取り扱い、電気回路の理解等を重点的に教育することとする。先端技術については企業連携講座でも情報を提供してもらうように依頼する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ②実習・演習の授業内容・手法に関して企業等から具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

自動車ディーラー担当者に整備士の授業依頼を行い、出前授業の承諾書を頂戴するとともに、打合せを行い、下記の4点について連携している。

- ① 担当者と打ち合わせを行い、実習日程、実習内容、到達目標、評価指標等を調整・決定
- ② 最新車両の持ち込み、最新整備工具の持ち込みを行い実習実施
- ③ 自動車ディーラー担当者との情報交換のため、担当教員による訪問
- ④ 実習終了時の学生の学修成果の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
基礎自動車整備作業 実習AⅢ	自動車整備用テスタの取り扱いと整備方法を学ぶ。	(株)九州マツダ
基礎自動車整備作業 実習BⅠ	自動車のガソリンエンジンを分解し構造や整備方法と測定技術を学ぶ。	ネットヨタ福岡(株) トヨタカローラ福岡(株) 福岡トヨペット(株)
基礎自動車整備作業 実習BⅡ	自動車の法令点検について学ぶ。	ネットヨタ福岡(株) トヨタカローラ福岡(株) 福岡トヨペット(株)
基礎自動車整備作業 実習BⅢ	自動車のシャシ関係部品(トランスミッション)の分解、組付けを行う。	ネットヨタ福岡(株) トヨタカローラ福岡(株) 福岡トヨペット(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。

「大原学園 教職員研修規程」の定めに基づいて実施。

本校では、毎年、多くは学生の夏期休業期間(7~8月)を利用して研修を実施。

- ①自動車整備振興会による最新技術、整備主任者、自動車検査員研修の講習受講
- ②自動車メーカー主催による新型車及び新機構の講習会受講

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- ①-1 研修名「整備主任者研修(技術)」(連携企業等:一般社団法人福岡県自動車整備振興会)  
期間:令和2年6月16日(火) 対象:大西 剛  
内容:特定整備に関する講習
- ①-2 研修名「整備主任者研修(法令)」(連携企業等:一般社団法人福岡県自動車整備振興会)  
期間:令和2年11月6日(金) 対象:大西 剛  
内容:自動車に関する法令変更や点検方法等の講習
- ①-3 研修名「日産自動車技術研修」(連携企業等:日産自動車株式会社)  
期間:令和2年12月2日(水) 対象:木山 龍昭  
内容:最新の自動車技術講習とシステム体験走行

②指導力の修得・向上のための研修等

- ②-1 研修名「令和2年度中堅教員研修 学級経営・学生対応」(連携企業等:一財福岡県私立学校各種学校協会)  
期間:令和3年2月2日~3日 対象:木山 龍昭  
内容:Q-Uアセスメントを用いた教員の指導力向上研修(コロナの影響で中止)
- ②-2 研修名「職業訓練指導員研修」(連携企業等:福岡県能力開発協会)  
期間:令和3年2月18日~27日 対象:小島 聡  
内容:職業訓練指導員の養成講座で訓練生の心理、指導方法、訓練方法を学ぶ(コロナの影響で不参加)

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整備主任者研修(技術)」(連携企業等:一般社団法人福岡県自動車整備振興会)  
期間:令和3年7月15日(木) 対象:大西 剛  
内容:自動車新技術研修

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「職業訓練指導員研修」(連携企業等:福岡県能力開発協会)  
期間:令和4年2月ごろ 対象:自動車職員  
内容:職業訓練指導員の養成講座で訓練生の心理、指導方法、訓練方法を学ぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す項目で評価する。評価結果については、校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。</li> <li>②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。</li> <li>③カリキュラムは体系的に編成されているか。</li> <li>④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。</li> <li>⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。</li> <li>⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。</li> </ul>
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。</li> <li>②資格取得率の向上が図られているか。</li> <li>③退学率の低減が図られているか。</li> <li>④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> </ul>
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就職に対する体制は整備されているか。</li> <li>②学生相談に関する体制は整備されているか。</li> <li>③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。</li> <li>④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。</li> <li>⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。</li> <li>⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。</li> <li>⑦保護者と適切に連携しているか。</li> <li>⑧卒業生への支援体制はあるか。</li> </ul>
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。</li> <li>②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。</li> <li>③防災に対する体制は整備されているか。</li> </ul>
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学生募集活動は、適正に行なわれているか。</li> <li>②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。</li> <li>③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。</li> <li>④学納金は妥当なものとなっているか。</li> </ul>
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。</li> <li>②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。</li> <li>③財務について会計監査が適正に行なわれているか。</li> <li>④財務情報公開の体制整備はできているか。</li> </ul>
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。</li> <li>②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。</li> <li>③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。</li> <li>④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。</li> </ul>
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。</li> <li>②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。</li> </ul>
(11)国際交流	留学生と共に学ぶ環境が整っているか。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

①教育活動について

検定試験の合格率が一部低迷している。社会に出るにあたり資格取得は重要な要素であるため、改善を進める。

②社会貢献・地域貢献

コロナの影響で地域交流活動などができない状況が続いているが、清掃ボランティアなど独自でできるものから再開し地域

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
和泉 孝司	ネットヨタ北九州株式会社 サービス部 技術・教育課 係長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等委員
福田 哲矢	株式会社ホンダ4輪販売福岡・大分	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和2年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の目標および計画、経営方針、特色、所在地、連絡先 学校の沿革
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、目指す資格・検定、資格取得・検定試験合格実績、卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・パンフレット)

URL:<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 二級自動車整備学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
1	○		ガソリンエンジン構造学Ⅰ	ガソリンエンジン本体とそのエンジンの作動を助ける付属装置について、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○		
2	○		ガソリンエンジン構造学Ⅰ	ガソリンエンジン本体とそのエンジンの作動を助ける付属装置について、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○		
3	○		ガソリンエンジン構造学Ⅱ	ガソリンエンジン本体とそのエンジンの作動を助ける付属装置について、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	16.2	1	○			○		○		
4	○		ディーゼルエンジン構造学Ⅰ	ディーゼルエンジン本体とそのエンジンの作動を助ける付属装置について、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	16.2	1	○			○		○		
5	○		シャシ構造学AⅠ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○		
6	○		シャシ構造学AⅡ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○		
7	○		シャシ構造学BⅠ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	16.2	1	○			○		○		
8	○		シャシ構造学BⅡ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	16.2	1	○			○		○		
9	○		自動車工学Ⅰ	自動車に関する計算を学びます。	1後	16.2	1	○			○		○		
10	○		電気・電子理論	電気・電子の基礎的な理論を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○		
11	○		電装品構造学Ⅰ	電装品に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○		



12	○		整備作業機器	自動車整備に使用する作業機器の概要や使用方法を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○					
13	○		工業計測	自動車整備で使用する計測器具、マイクロメータ、シリンダゲージ、ダイヤルゲージ等の扱い方や読み方を学びます。	1前	16.2	1	○			○		○					
14	○		図面 I	JIS規格に沿った線の引き方や太さ三角法などを理解し、自動車部品に関する構成図や断面図を見れるように学習します。	1後	16.2	1	○			○		○					
15	○		工作作業実習	軟鋼材料をボール盤、電気ドリル、ヤスリ、金切鋸等を用い工作作業を行ないます。	1前	34.2	1				○		○		○			
16	○		基本作業実習 I	自動車の基本的な取り扱い方法や整備機器の取り扱い方法を学びます。	1前	32.4	1				○		○		○			
17	○		基本作業実習 II	アナログサーキットテスターの組み立てと電気の測定方法を学ぶ。	1前	34.2	1				○		○		○			
18	○		基礎自動車整備作業実習 A I	自動車のリフト作業とブレーキ装置関係の構造と整備方法を学ぶ。	1前	86.4	2				○		○		○			
19	○		基礎自動車整備作業実習 A II	50ccエンジンを分解し構造や整備方法と測定技術を学ぶ。	1前	86.4	2				○		○		○			
20	○		基礎自動車整備作業実習 A III	自動車電気装置の整備について学ぶ。	1前	86.4	2				○		○		○			○
21	○		基礎自動車整備作業実習 B I	自動車のガソリンエンジンを分解し構造や整備方法と測定技術を学ぶ。	1後	82.8	2				○		○		○			○
22	○		基礎自動車整備作業実習 B II	自動車の法令点検について学ぶ。	1後	82.8	2				○		○		○			○
23	○		基礎自動車整備作業実習 B III	自動車のシャシ関係部品（トランスミッション）の分解、組付けを行う。	1後	82.8	2				○		○		○			○
24	○		基礎自動車整備作業実習 B IV	車体に取り付けられた状態のエンジンに関する整備方法を学ぶ。	1後	39.6	1				○		○		○			
25	○		基礎自動車整備作業実習 B V	自動車の車体系電気回路について学ぶ。	1後	39.6	1				○		○		○			
26	○		基礎自動車整備作業実習 B VI	エンジンの電子制御を学ぶ。	1後	32.4	1				○		○		○			

27		○	自動車キャリアデザイン	就職に対する準備を行う。	1 前後	52.2	1	○					○		○		
28	○		ガソリンエンジン整備法	ガソリンエンジン（電子制御装置）に関する構成部品及びその働きを学びます。	2 前	25.2	1	○					○		○		
29	○		ジーゼルエンジン整備法	燃料装置に関する構成部品及びその働きを学びます。	2 前	25.2	1	○					○		○		
30	○		シャシ整備法A	車体整備（サスペンション等）に関する構成部品及びその働きを学びます。	2 前	25.2	1	○					○		○		
31	○		シャシ整備法B	車体整備（ホイール等）に関する構成部品及びその働きを学びます。	2 前	25.2	1	○					○		○		
32	○		自動車工学Ⅱ	自動車に関する工学を学ぶ。	2 前	21.6	1	○					○		○		
33	○		電装品整備法	自動車ボディー電気装置に関する構成部品及びその働きを学びます。	2 前	25.2	1	○					○		○		
34	○		故障診断学ガソリンエンジン	ガソリンエンジンに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行う。	2 後	32.4	2	○					○		○		
35	○		故障診断学ジーゼルエンジン	ジーゼルエンジンに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行う。	2 後	32.4	2	○					○		○		
36	○		故障診断学シャシA	シャシ関係に関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行う。	2 後	34.2	2	○					○		○		
37	○		故障診断学シャシB	シャシ関係に関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行う。	2 後	34.2	2	○					○		○		
38	○		故障診断学電装品	電装品関係に関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行う。	2 後	32.4	2	○					○		○		
39	○		特殊機構	自動車に用いられる特殊装置を学ぶ。	2 後	16.2	1	○					○		○		
40	○		材料・燃料・油脂	自動車の燃料・材料・油脂類に関する知識を学ぶ。	2 後	16.2	1	○					○		○		
41	○		自動車検査	道路運送車両法（検査関係）を学ぶ。	2 後	21.6	1	○					○		○		

42	○		自動車関係法令	道路運送車両法（登録関係）を学ぶ。	2後	21.6	1	○			○		○				
43	○		応用自動車整備作業実習AⅠ	2輪整備とオートマチックトランスミッションについて学ぶ。	2前	77.4	2				○	○		○			
44	○		応用自動車整備作業実習AⅡ	デジタルテスタを利用した、自動車の電気装置について学ぶ。	2前	77.4	2				○	○		○			
45	○		応用自動車整備作業実習BⅠ	車体からエンジン、トランスミッション、エアコンディショナーの脱着作業を行う	2後	68.4	2				○	○		○			
46	○		応用自動車整備作業実習BⅡ	自動車の電子制御と故障診断技術を学ぶ。	2後	70.2	2				○	○		○			
47	○		応用自動車整備作業実習BⅢ	ジーゼルエンジンの構造と整備方法について学ぶ。	2後	70.2	2				○	○		○			
48	○		自動車検査実習	自動車の法令点検と検査方法について学ぶ。	2前	75.6	2				○	○		○			
49	○		総合自動車整備実習	ジーゼルエンジンの構造と整備方法について学ぶ。	2後	43.2	1				○	○		○			
50		○	パソコン実習	EXCELの学習をする。	2前	16.2	1				○	○		○			
51		○	消防法	危険物取扱者乙種4類について学ぶ。	2前	16.2	1	○				○		○			
52		○	自動車ビジネスマナーⅠ	社会人マナーのマナーを学習する(基礎編)	2前	16.2	1	○				○		○			
53		○	自動車ビジネスマナーⅡ	社会人マナーのマナーを学習する(応用編)	2後	16.2	1	○			△	○		○			
合計				科目	1935.0単位時間(70単位)												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科…前期定例試験・後期定例試験の各試験結果を成績とする。</li> <li>・実習…各セクションの実技テストの点数を成績とする。</li> </ul> <p>〔成績評定及び評定時期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評定は原則として学年末に行う。(前期・後期は評価点を記入する。)</li> <li>・科目別成績評定は、秀、優、良、可、不可の5段階とする。 秀 100～90・優 89～80・良 79～70・可 69～60・不可 59点以下</li> <li>・授業科目の成績は、5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP (Grade-Point) を与える。</li> </ul> <p>〔試験種類〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本試験…学科試験及び各セクション終了後の実習実技試験。</li> <li>・追試験(本試験にかわる試験)…やむを得ない事由で本試験を受けられなかった者には、追試験(本試験にかわる試験)の機会を与える。</li> <li>・再試験…本試験で不可となったものには再試験を行う。</li> </ul> <p>〔卒業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に在学し、1,818.0時間(65単位)の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。</li> </ul>	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	27週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。